東京交通新聞 （昭和35年10月22日 第三種郵便物認可） 2018年（平成30年）2月19日

防災にも威力 自治体注目

簡易型ＬＰガススタンド全国へ普及

カグラベーパーテックの簡易型ＬＰガススタンド「オートコンポ」が全国に普及している。省スペース、敷地内での燃料充填、燃料コスト削減の利点に加え、最近では国土強靭化に基づく防災対策上の重要性が認められ地方自治体からも熱い視線が注がれている。各地で活躍する姿を紹介する。

酒田市のプリウスＬＰＧハイブリッドを点検する小松豊社長。充填なしで2000キロ近く走る点も評価されている。利便性向上には「オートコンポ」は不可欠だ。

山形・酒田市

官・民で魅力発信

ケイテック「ＬＰＧ車を身近に」

「ＬＰガス車の魅力を酒田から世界に発信しよう！」

日本海に面した庄内平野の代表都市、山形県酒田市。かつて北前船交易により商人の街として繁盛した活力ある土地柄を生かし、官・民でＬＰガス自動車を全国、世界に広げようと動き出している。

ＬＰガスハイブリッド（バイフューエル）自動車の改造・販売を手掛けるケイテック（同市大宮町、小松豊社長）は創業14年目。昨年、同市と災害協定を結び会社敷地内に「オートコンポ」を設置。だれでも利用できるＬＰガススタンドとして今年1月末に操業を開始した。

同市とケイテックとの関わりは2014年。後藤仁酒田市議会議員が同社のプリウス・ＬＰガスハイブリッド車に目を留め、市も同調。災害時の燃料分散化にと公用車に採用した。

市はより多くの市民に見てもらおうと車体にＰＲをペイントし、県内外の遠距離用に使った。東日本大震災でのガソリン不足を体験した後とあって注目を集め、市の採用を知った市内企業に30台ほど広がった。

永田斉市総務部市政推進調整監は「経済効率もよく危機管理に有効だ。今後も公用車に拡充していく。若手が率いる地場の高い技術を後押ししたい」と意気込む。

ス自動車普及を支える縁の下の力持ちだ。出勤前や退社後に立ち寄って充填できるよう営業時間を午前7時半～午後7時に。小松社長は「一般のオートガススタンドと違い設備費も安く、手続きもシンプルで改造メーカー、整備工場でも設置できる。改造、販売、メンテ、燃料充填のトータルサービスを確立しＬＰガス車を身近な存在に押し上げたい」と語る。

酒田市は周囲10キロの離島「飛島」も抱える。三つの集落は津波水没想定地域。市は水没に備え、高台に「オートコンポ」などのＬＰガス設備の設置も検討したい考えだ。

ＬＰガス災害対策先進地へ地元の夢は膨らむ。

静岡・湖西市

災害時 避難所へ供給

遠鉄タクシー 経産省の助成活用

2017年11月末から「オートコンポ」の使用を開始しているのが遠鉄タクシー（丸山晃司社長）の湖西営業所。災害時にＬＰガスを避難所へ供給する協定を湖西市と締結し、経済産業省の助成制度を活用して導入した。

静岡県で最も西に位置する湖西市。浜松交通圏の中でもとりわけ地域に密着した営業所となっている。

「オートコンポ」を導入することになったのは、地元のＬＰガススタンドの撤退がきっかけだった。16年夏に「17年5月末で閉鎖」との通知を受けた。無くなれば、わずか1・3キロほどの距離で済んでいた燃料充てんが、浜松市内にあるスタンドまで約40分かけて向かうことになる。

スタンド設置に必要な広さがなかった湖西営業所は、これを機会に移転をすることになり、現在の場所へ。17年10月に開所し、11月末からの「オートコンポ」稼働となった。

それでも地元スタンドが閉鎖となった17年5月から約半年は、充てんのため浜松市内まで往復していた。時間が取